

保育実践ジャーゴンの活用に関する研究

—場面ごとの事例をもとに—

A Case Study on Childcare Worker's "Jargon" in Japan

真宮 美奈子, 遠藤 愛実, 木浦原 えり
花輪 真衣, 依田 麻里江, 若林 沙耶

Minako MAMIYA, Manami ENDO, Eri KIURAHARA
Mai HANAWA, Marie YODA, Saya WAKABAYASHI

概要

ジャーゴンとは、特定の職業集団の間だけで通用する特殊な職業言語であり、保育現場にも保育者独特の言葉である保育実践ジャーゴンがある。保育実践ジャーゴンとは、子どもとのコミュニケーションを成立させる鍵となる発話のことであり、保育において有効であり、不可欠なものである。先行研究においては、「対象の擬人化」「子どものモノ化」等、言葉の用いられ方の特徴が主に9つに分類できることが明らかとなっている。

本研究では、保育実践ジャーゴンを保育の現場でより活用しやすいものにするという視点から、活動場面ごとに事例进行分类することを試みた。その結果、移動、食事、活動前、靴・スリッパの着脱、片づけ、制作の場面において、保育実践ジャーゴンが積極的に活用されていることが示唆された。

I. 目的

山内(2007)によると、ジャーゴンとは、特定の職業集団の間だけで通用する特殊な職業言語であり、保育現場にも保育者独特の言葉である保育実践ジャーゴンがあるという。保育実践ジャーゴンとは、子どもとのコミュニケーションを成立させる鍵となる発話のことである。例えば、朝の会で子どもが静かにならない場合、保育者が「静かにしてください」というと、子どもたちは、静かになるどころか保育者の声よりも大きい声で話始める。しかし、「〇〇くん、いいお耳ですね」と保育実践ジャーゴンをういて子どもを褒めると、他児も話をしてはいけない時間であると気づき、姿勢を正して静かに座り始める。このよう

に、子どもとのコミュニケーションを成り立たせるために、保育実践ジャーゴンは保育において有効であり、不可欠なものである。

保育実践ジャーゴンは、「対象の擬人化」「子どものモノ化」等、用いられ方が9つ分類できることが示されている(山内2007)。しかしながら、どのような場面で活用されているかについては、十分整理できているとは言い難い。

そこで、本研究では、保育実践ジャーゴンを保育の現場でより活用しやすいものにするという視点から、活動場面ごとに事例进行分类することを試みたい。保育実践ジャーゴンは、「保育実践の特定の文脈のみで意味が確定される言語である」ため、事例がすべて有効に機能するとは言い難い。しかし、保育実践ジャーゴンの事例を場面ごとに

分類し、その知識を有しておくことは、保育実践を円滑にすすめるうえで有用であると考えられる。

Ⅱ. 方法

1. 調査期間

平成23年10月14日, 12月8日

2. 調査対象

山梨県内のY短期大学に在籍する保育科学生1年生・2年生合計246名

3. 分析方法

平成23年8月・9月の保育所実習(保育科1, 2年生)および11月の幼稚園教育実習(保育科2年生)の中で観察した保育実践ジャーゴンについて、アンケートを実施した。

アンケート用紙には、活動場面、対象年齢、保育実践ジャーゴンを含んだ言葉がけのエピソードについて記述してもらった。これを活動場面ごとに分類をした。

Ⅲ. 結果と考察

1. 各カテゴリーの回答数

前述のアンケート結果を分析した結果、18場面のカテゴリーに分類することができた。各カテゴリーの回答数は、表1のとおりであった。最も多かったのが整列・移動場面であり、126件であった。2桁以上の事例が集まったものを多い順に列挙すると、食事場面が55件、活動前の場面が47件、靴・スリッパの着脱場面39件、制作場面27件、片づけ場面22件、プール活動場面11件となった。

表1 保育実践ジャーゴンの場面ごとの集計結果

	場面	件数		場面	件数
1	整列・移動	126	10	うがい・手洗い	5
2	食事	55	11	午睡	4
3	活動前	47	12	かけっこ	3
4	靴・スリッパの着脱	39	13	歌唱指導	3
5	制作	27	14	落し物	3
6	片づけ	22	15	排泄	3
7	プール活動	11	16	ダンス・体操	2
8	着替え	9	17	散歩	1
9	遊び	6	18	掃除	1

限られた時間の中で、何十人の子どもたちをまとめなくてはならない場面において、積極的に保育実践ジャーゴンが活用されていることが窺える。

2. 各カテゴリーの特徴

以下では、20件以上あつまった上位6場面を対象に、「保育実践ジャーゴン」の活用事例を取り上げる。なお、表に示した()内の数字は、回答数である。

(1) 整列・移動

この場面では「電車になる」が70件、「忍者になる」が33件と多く、移動する子どもの姿をモノや人に例えるジャーゴンが用いられる傾向がみられた。

「電車になる」という保育実践ジャーゴンは、0歳児から5歳児のすべての年齢で活用されており、中でも3歳児(23件)において最も多用されていた。動きが活発なる3歳児が安全に移動できるようにするうえで、子どもがイメージしやすく、使いやすいジャーゴンであることが窺えた。

また、「忍者」「かにさん」「兵隊さん」「へびさん」など、具体的なものに例えるジャーゴンを使うのは、自分の力でイメージし、真似ることのできる3歳から5歳児が主であった。5歳児では、「世界リレー選手」のように子どもたちが憧れの対象とするものを含むものも見られた。自分の周りにも目を向けられるようになる5歳児の発達過程を踏まえた保育実践ジャーゴンと言えるだろう。

(2) 食事

食事場面では、残さず食べること、好き嫌いをしないことや、食事マナーを子どもに伝えるための保育実践ジャーゴンが主となっていた。中でも「集まれ」(31件)は、すべての年齢で用いられ、最も件数が多かった。どの年齢にも分かりやすく、頻繁に使われることが分かった。

保育実践ジャーゴンの多くは、「こちこち」「飛行機」「一人ぼっち」「ワニさんのお口」など、残さず食べること、好き嫌いをしないことに関連するものであり、重要視されていることが窺える。

3歳以上児では、食事のマナーを伝える保育実践ジャーゴンがみられたのが特徴的であった。お皿の並べ方・片づけ方を促すものとして「がっ

しゃん」「ミッキー」、よい姿勢で食事をするよう 「仲良し」などが見られた。
に促すものとして「がっちゃん」「素敵なお姉さ

表2 整列・移動場面における保育実践ジャーゴンの事例

対象年齢	保育実践ジャーゴン	意味	発話 (回答数)
0歳児～1歳児	電車になる	友達の両肩を掴み、整列する様子	電車になって行きましょう(13)
1歳児	コココ	あひるの子どものように目のお友達の後を追って歩く	コココして行きましょう(1)
2歳児	電車になる	友達の両肩を掴み、整列する様子	電車になって行きましょう(18)
	忍者になる	お友達とのおしゃべりをやめ、静かに移動する	忍者になって行きましょう(1)
3歳児	電車になる	友達の両肩を掴み、整列する様子	電車になって移動しましょう(23)
	グニャグニャ	列が乱れている	列がグニャグニャなっているよ。どうしたら良いのかな?(1)
	とんとん前	周りのお友達と息を揃えて整列をするための掛け声	とんとん前で並んでください。とんとん前、とんとん前(1)
	かくれんぼ	前から見て子どもの顔が前に並んでいるお友達の顔に隠れる様子	前の人にかくれんぼして並びましょう(1)
	忍者になる	お友達とのおしゃべりをやめ、静かに移動する	忍者になって行きましょう(13)
	壁忍者	壁に沿って歩く	大きいダンブが来たから壁忍者してね(1)
	かべかべ	端を歩く	かべかべで行きますよ(1)
	べったん	くつつく	腕いだ上履きお壁にべったんしてね。みんなも壁さんにべったんしようね(2)
4歳児	電車になる	友達の両肩を掴み、整列する様子	電車になって行きましょう(8)
	忍者になる	お友達とのおしゃべりをやめ、静かに移動する	忍者になって行きましょう(11)
	目の前が真っ黒すけ	目の前が前のお友達の黒い頭で真っ黒になるようにまっすぐ整列する様子	並びます。目の前が真っ黒すけになるかな?(1)
	とんとん前	周りのお友達と息を揃えて整列をするための掛け声	とんとん前で並んでください。とんとん前、とんとん前(1)
	蛇さんになっている	乱れた状態で並んでいる様子	蛇さんになっているから、まっすぐ並びましょう(2)
	お口をミッフィー	口を閉じて静かにする	お口はミッフィーにして行きましょう(1)
	ガッちゃん	組むこと	手を後ろでガッちゃんしましょう(1)
	べったん	くつつく	腕いだ上履きお壁にべったんしてね。みんなも壁さんにべったんしようね(2)
5歳児	電車になる	友達の両肩を掴み、整列する様子	みんな、電車になってね(8)
	忍者になる	お友達とのおしゃべりをやめ、静かに移動する	忍者になって行きましょう(8)
	アテンションピッ	飛行機の客室乗務員を真似て正しい姿勢になること	しっかり並びましょう。アテンションピッ(1)
	お口をミッフィー	口を閉じて静かにする	お口はミッフィーにして行きましょう(1)
	世界リレーの選手	子どもたちの憧れの対象	世界リレーの選手になって、かっこよく移動してね(1)
	兵隊さんになる	前後の友達と揃って歩いて移動すること	兵隊さんになって移動しますよ。1, 2, 3, 4(1)

不明	列車になる	友達の両肩を掴み、整列をする様子	列車で行きましょう(2)
	かにさんチョキチョキ	かにのように横移動をすること	みんなでかにさんチョキチョキをしますよ(1)

表3 食事場面における保育実践ジャーゴンの事例

対象年齢	保育実践ジャーゴン	意味	発話(回答数)
0歳児 ～1歳児	集まれ	ご飯粒をまとめる	たくさん食べたね。集まれするから、もう少し頑張ってみよう(5)
2歳児	集まれ	ご飯粒をまとめる	たくさん食べたね。集まれするから、もう少し頑張ってみよう(4)
	がっちゃん	机にお腹をくっつける	食べ物がポロポロしないように、机にがっちゃんして食べましょう(1)
	にんじんさんの飛行機が口に飛んでいく	口に野菜を入れる	にんじんさんの飛行機が○ちゃんのお口に飛んで行くよ(1)
	もぐもぐ	食べ物をよく噛む	よくもぐもぐして食べましょうね(1)
	ピカピカ	お皿にご飯粒一つ残っていない様子	頑張ってお皿をピカピカにするように食べようね(1)
	仲良し	二つ揃えたり、くっつけたりする	お箸(机とおなか)を仲良しにして使いましょう(2)
	一人ぼっち	残っている食べ物の様子を人に例えたもの	にんじんさんが一人ぼっちで寂しそうだよ(1)
3歳児	集まれ	ご飯粒をまとめる	たくさん食べたね。集まれするから、もう少し食べてみよう(10)
	がっちゃん	重ねる	お皿をがっちゃんしましょう(1)
	こちこち	お皿に残っている食べ物集める	こちこちしようか(1)
	合体	重ねる	お皿を合体しましょう(1)
	がっちゃん	机にお腹をくっつける	食べ物がポロポロしないように、机にがっちゃんして食べましょう(1)
	仲良し	二つ揃えたり、くっつけたりする	机とお腹を仲良しにして食べましょう(1)
	お部屋	グループ、組み分けをわかりやすくしたもの	自分のお部屋にご飯があるかを確認しましょう(1)
	素敵なお姉さん	子どもの憧れの対象	**ちゃんも頑張って野菜を食べると、素敵なお姉さんになるよ(1)
	足が遊んでいる	落ち着きがない際に、子どもが足をブラブラさせている様子	**君の足が遊んでしまっているけど、それで給食を食べてしまっても良いのかな?(1)
	ワニさんのお口	大きく口を開ける	ワニさんのお口で頑張って食べましょう(1)
4歳児	集まれ	ご飯粒をまとめる	たくさん食べたね。集まれするから、もう少し食べてみよう(6)
	こちこち	お皿に残っている食べ物集める	こちこちしようか(1)
	パーティー	普段と違うご飯のときの机の位置	パーティーみたいにして(1)
	まぜまぜ	混ぜる	ごはんとお魚さんまぜまぜして食べてもいいよ(1)
	バーン	間違っている	**君、お箸の使い方がバーンだよ(1)
	シュッシュ	霧吹きで手を消毒する	シュッシュするから手を出してね(1)
5歳児	集まれ	ご飯粒をまとめること	たくさん食べたね。集まれするから、もう少し食べてみよう(4)
	こちこち	お皿に残っている食べ物集める	こちこちしようか(1)
	ミッキー	整えられ並んだ食器を例えたもの	お皿をミッキーにしましょう(1)

不明	集まれ	ご飯粒をまとめること	たくさん食べたね。集まれするから、もう少し食べてみよう(2)
	もぐもぐ、あーん	食べ物をよく噛むこと	お口に入れてあげる、アーンしてもぐもぐもぐ(1)

(3) 活動前

活動前の保育実践ジャーゴンでは、子どもたちの気持ちをいかに保育者へ向けるかという工夫が凝らされたものが多かった。例えば、「おへそビームを向けてください」や「ラブラブ光線を向けてください」といったジャーゴンである。このようなジャーゴンを使うことによって子どもたちは自ずと保育者へ目を向けることになる。

また、子どもが静かに話を聞けるようにするために、「ぞうさんの耳で聞きましょう」や、「お口チャック」「心臓の音を聞いてみよう」などが用

いられている。「静かにしましょう」と強要するのではなく、自分の力で次にどうすべきかを考えて行動を出来るように導くものであった。子どもの姿勢も重要であり、「背筋ぴん」や、「体育すわりがっしょんしましょう」、「チューリップの姿勢になりましょう」というジャーゴンが見られた。

これらのジャーゴンによって、子どもたちが保育者の話を聞きやすい環境、保育者が子どもたちに話しやすい環境が整えられていることが分かる。

表4 活動前場面における保育実践ジャーゴンの事例

対象年齢	保育実践ジャーゴン	意味	発話(回答数)
1歳児	壁さんにくっつく	壁に整列して座る	みんなで壁さんにくっつくよ(1)
2歳児	仲良しさん	机と椅子を正しい位置にして座る	お椅子と机仲良しさんだよ(1)
	ぞうさんの耳	静かに集中して話を聞く	ぞうさんの耳にして聞こうね(1)
	お椅子を壁にペタンコ	壁に椅子の背もたれをつけて並ぶ	お椅子を壁さんにペタンコしておいてね(2)
3歳児	おへそビーム	先生の方を向く	先生におへそビームしてください(1)
	机とお腹がペタンコ	姿勢を正して給食を食べる	ちゃんと机とお腹がぺたんこしているかなあ?(1)
	忍者	さっと静かに集まる	忍者は静かにそーっと集まるのである(3)
	仲良しさん	机の中に椅子をしまう	机とお椅子を仲良ししてください(1)
	お口チャック	静かにする	お口はチャックしましょう(1)
	壁ぺたん	壁に背中をくっつける	壁ぺたんして準備しましょう(1)
	ぞうさんの耳	静かに集中して話を聞く	ぞうさんのような大きなお耳で聞いて下さい(1)
	背筋ぴん	姿勢を正す	かっこよく背筋がぴんとなってるね(1)
	体育座りがっしょん	背筋を伸ばし体育座りなる	体育座りがっしょんしてね(1)
	列車になってガッシャン	列を直して真っ直ぐになった	列車になっていくよ!ガッシャン!(1)
4歳児	仲良しさん	机の中に椅子をしまう	机とお椅子を仲良ししてください(1)
	手はおひざ	静かに待つ	手はお膝にしましょう(1)
	お口のチャックをしめる	静かにする	お口のチャックをしめますよ(4)
	ギーコギーコガチャッ	口を閉じて静かにする	保「お口をチャック」子「ギーコギーコガチャッ」(1)
	○○や△△はかっこよく並ぶ	整列できるようにする(○や△の中に戦隊もののヒーローをいれる)	○○や△△は、こういう時かっこよく並ぶんだろーなー!!(1)

	お姫様, 王子様	きちんと静かに座る	かわいいお姫様とかっこいい王子様になれるかな? (1)
	チューリップの姿勢	手を体側にし, 背筋をのばす姿勢	チューリップの姿勢になったかな? (1)
	ダンボのお耳	先生の話に注意して聞く	大きなダンボのお耳で先生のお話聞いて下さい(1)
	おさるさんの耳	先生の話に注意して聞く	お耳をおさるさんの耳にして聞いてね(1)
	キラキラのお目目	先生の方を向く	みんなのキラキラのお目目を先生に見せてください(1)
	お母さん座り	正座をする	お母さん座りをして下さい(1)
	忍者座り	待っている時の姿勢	待っている時は, かっこいい忍者さんになるよ(2)
	おへそを先生に向ける	前を向く	おへそを先生に向けて下さい(1)
	忍者になって待つ	膝立ち座りになる	忍者になって待っていきましょうね(1)
	ぞうさんの耳	静かに集中して話を聞く	ぞうさんのような大きなお耳で聞いてください(1)
	足は伸良しさん	両足をぴったりつけて気をつけの姿勢をする	足は伸良しさんだよ(1)
5 歳児	電車になってがっしょん	椅子を並べる	電車になってがっしょんしましょう(1)
	ダンボのお耳	静かに集中した耳を大きくしたつもりで話を聞く耳	ダンボのお耳になってお話聞けますか?(1)
	お口チャック	静かにする	みんなお口はチャックだよ(1)
	かっこよく	姿勢と態度をよく	どこのチームがかっこよく座れているかな?(1)
	心臓の音を聞く	心臓の音が聞こえる位静かにする	心臓の音を聞いて下さい(1)
	忍者座り	膝立ち座りになる	かっこよく忍者座りで待ちましょう(2)
不明	アリさんの声	小さな声	アリさんの声でも聞こえるかな?(1)
	ラブラブ光線	先生の方を向く	みんなのラブラブ光線を先生に向けてください(1)
3 歳児 ～5 歳児	かっこよく	活動をがんばる	お兄さん, お姉さんのかっこいいところを見せてもらおう(1)

(4) 靴・スリッパの着脱

靴・スリッパの着脱の場面では, 靴やスリッパを生きた人間のように表現するジャーゴンが多くみられた。例えば「靴が泣いている」「靴が迷子になっている」「靴が喧嘩している」といったも

のであり, 3歳以上児のみに見られた。

このようなジャーゴンを使うことで, 子ども自身がどうするべきかを考えるきっかけをつくり, 靴やスリッパを揃えるというマナーを伝えていることが分かる。

表5 靴・スリッパの着脱場面における保育実践ジャーゴンの事例

対象年齢	保育実践ジャーゴン	意味	発話(回答数)
3 歳児	靴が泣いている	靴が揃っていない	お靴が泣いているよ(1)
	靴が迷子になっている	靴が揃っていない	靴が迷子になっているよ(2)
	靴がケンカしている	靴が揃っていない	靴がケンカしてるよ(4)
	伸良しさん	揃える	左と右のスリッパを伸良しさんしてあげて!(12)

	スリッパをがっしょんこする	スリッパをそろえる	スリッパが仲良しさんじゃないから、がっしょんこしようよ(1)
	上履きをお壁にべったん	かべにくっつける	脱いだ上履きはお壁にべったんしてね(1)
	トントンする	かかとまでしっかり履く	(かかとを踏みつぶさないように) トントンもう1回しよう(1)
4歳児	仲良しさん	揃える	左と右のスリッパを仲良しさんしてあげて!(7)
	靴が迷子になっている	靴が揃っていない	これ誰のかな?お靴さんが迷子だよ?(1)
	靴が泣いている	靴を下駄箱から出しっ放しの状態	お靴が泣いているよ、ちゃんとお靴をしまおうね(1)
	靴がしくしくしている	靴が揃っていない	お靴が淋しくて、しくしくしているよ(1)
	靴がケンカしている	靴が揃っていない	靴がケンカしてるよ(4)
5歳児	靴が泣いている	靴が揃っていない	靴さんが一人ぼっちで泣いているよ(1)
	仲良しさん	揃える	スリッパは仲良しさんにしましょう(1)
	靴が喧嘩している	靴が揃っていない	スリッパが喧嘩しているよ。仲直りさせてあげようか?(1)

(5) 制作

制作の場面では、一斉活動ができる3歳児以上クラスでの保育実践ジャーゴンの活用例が得られた。3歳児、4歳児、5歳児クラスのどの年齢でも一番多かった保育実践ジャーゴンは「アイロン」である。これは、紙を折る時にしっかりと折り目をつけることを伝える場合に使用される。他の保育実践ジャーゴンの回答は1つずつであったが、この「アイロン」は15件の回答があった。

次に、3歳児ではのりやはさみを使い始める時期なので、「のりをべったん、はさみでちょきちょき」「上の窓からお父さんがびよこ!下の窓からお母さんとお兄さんがびよこ!」と擬態語を使ったり、はさみの持ち手への指の入れ方を擬人化する保育実践ジャーゴンが見られた。また、道具の使い方に対して机の中央に道具を重ねて置く

「一本電車にしてね」、道具を丁寧に扱うように伝える「痛い痛いって言うてるから優しくしてあげようね」、動作を示す「クレヨンのかぶりを仲良しさんしましょう」や、「かぶりとクレヨンを合体してください」という保育実践ジャーゴンがみられ、制作時は道具の使い方や制作をしやすいうに道具を整理する動作などの保育実践ジャーゴンが使用されていることがわかった。

4歳児では、子どもの記憶に関する「頭に鍵を閉める」(覚える)、「頭のコンピューターを開く」(思い出す)という保育実践ジャーゴンや、造形技法のデカルコマニーのことを「魔法みたいな難しい言葉」、画用紙を半分に切って開いた空間を「1番のお部屋、2番のお部屋」と例えるなど制作ならではの保育実践ジャーゴンが見られた。

表6 制作場面における保育実践ジャーゴンの事例

対象年齢	保育実践ジャーゴン	意味	発話(回答数)
3歳児	一本電車にして	机の中央に道具を重ねて置く	一本電車にしてね(1)
	アイロンをかける	折り紙をしっかりと折る	アイロンをかけるよ(4)
	上の窓からお父さんがびよこ!下の窓からお母さんとお兄さんがびよこ	はさみの持ち方の指導	上の窓からお父さんがびよこ!下の窓からお母さんとお兄さんがびよこ!(1)
	のりをべったん、はさみでちょきちょきする	のりで貼るときや、はさみで切るときに擬音を使って促す	のりをべったんべったんして、はさみでちょきちょきしましょう(1)

	物が痛い痛い言ってる	物を丁寧に扱うようにする	痛い痛いって言ってるから、もっと優しくしてあげようね(1)
	仲良しさん	ふたをしめるよう促す	クレヨンのふたを仲良しさんしましょう(1)
	合体する	ふたとクレヨンを合わせる	ふたとクレヨンを合体してください(1)
4歳児	アイロンさんして	折り紙をしっかりと折る	アイロンさんして伸ばしてね(6)
	頭に鍵を閉める	覚える	折り紙の折り方を頭に鍵を開けておいてね(1)
	頭のコンピューターを開く	思い出す	頭のコンピューターを開いてください(1)
	魔法みたいな言葉	技法「デカルコマニ」の説明	魔法みたいな難しい言葉だね(1)
	こんにちは	折り紙を折る	折り紙をこんにちははしてください(1)
	1番2番のお部屋	画用紙を半分に折って開いた空間	1番のお部屋に絵具をつけて、2番のお部屋をくっつけてください(1)
5歳児	アイロンがけをする	折り紙をしっかりと折る	きちんと線がつくようにアイロンがけをしてください(1)
不明	かにさんになってちょきんする	紙ではさみを切る	かにさんになって紙をちょきんしましょう(1)
	アイロンさんして	折り紙をしっかりと折る	アイロンさんして伸ばしてね(4)

(6) 片づけ

片付けの場面のジャーゴンについては、未満児に対して「ないない」という保育実践ジャーゴンが多く用いられていた(10件)。また、「おもちゃが泣く」「お家に帰す」といったおもちゃを擬人

化するものが見られた。「お片づけチャンピオン」「仮面ライダー」など、子どもたちが憧れるものに例え、子どもの意欲を引き出すものも見られた。

表7 片づけ場面における保育実践ジャーゴンの事例

対象年齢	保育実践ジャーゴン	意味	発話(回答数)
0歳児 ～1歳児	ないない	おもちゃを片づける	ないないするよ(7)
2歳児	ないない	おもちゃを片づける	ないないするよ(3)
	お家に帰す	おもちゃを片づける	おもちゃをお家に帰してあげましょう(2)
	おもちゃが泣く	おもちゃを大切にする	おもちゃが泣いているよ(2)
3歳児	ないない	おもちゃを片づける	ないないするよ(1)
	泣いている	おもちゃを片づける	つみき(絵本)さんが泣いている(2)
	お家に帰す	おもちゃを片づける	〇〇くん(人形の名前)お家に帰してあげましょうね(1)
	お片付けチャンピオン	上手に片づけられる人	お片付けチャンピオンは誰かな?(1)
4歳児	お家に帰す	おもちゃを片づける	お人形さんやお野菜をお家に帰しましょう(1)
不明	働きアリさん	働き者になって一生懸命取り組む様	働きアリさんになって遊んだ物を運びましょう(1)
	仮面ライダー	すばやく	仮面ライダーになって片づけして下さい(1)

Ⅳ. まとめ

本研究では、幼稚園・保育所での実習を経験した学生へのアンケートにより、活動場面ごとに保育実践ジャーゴンの分類を行い、どのように使用されているかの考察を行った。その結果、移動、食事、活動前、靴・スリッパの着脱、片づけ、制作の場面でジャーゴンが多用されていることが分かった。これらの場面は、子どもたちの関心を保育者にひきつけ、集団活動を円滑に進める必要があるものである。このような場面において、子どもとコミュニケーションを成立させる鍵となる保育実践ジャーゴンを使うことによって、集団で活動する子どもたちの興味を一瞬で保育者に引き付けたり、子どもたち自身が自分の力で周りに目を向け、何をすべきかに気づいたりできるようにしていることが窺えた。

〈参考・引用文献〉

- 山内紀幸 2007「保育ジャーゴンの研究 社会運脈実践家としての保育者」磯部裕子・山内紀幸『ナラティブとしての保育学』萌文書林 197-205